

# 女川町 情報収集 & プチ支援活動レポート

(宮城県牡鹿郡女川町 各所にて)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！

平成23年8月10日(水)  
東北被災地応援団 白金支部  
工藤 史大

## 女川町 情報収集 & プチ支援活動レポート

このたびの東日本大震災により亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に  
対し心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

### 1. はじめに

今回の女川町再訪は、次回9月頭に予定している支援活動をより充実させるために行いました。

震災から5ヶ月、現在被災県では国の施策により、9月末を目処として避難所住民を仮設住宅へ移行する段階に進んでいます。

今まではプライバシーはないものの、3食の配給が受けられた避難所ですが、仮設住宅への移行で完全に自立した生活を避難者は  
余儀なくされます。仮設住宅への移行により、高齢者の孤独死や、コミュニティーがないなかでの生活、収入がなく都市部への人口  
流出が問題となります。

今後の支援活動を続けていく中で、物資や食料支援、子供達への計画レクリエーションに留まらず、支援内容を幅広くケアしていく  
必要性を感じ、多方面からの情報収集が不可欠と判断し、今回は少数の3名で女川町入りをしました。

### 2. 活動計画

- ・現地ボランティア受入団体「テント村だいいょうぶ屋」へ情報収集
- ・女川町災害ボランティアセンターより依頼の「八工取りポット」原料の支援及び情報収集
- ・石浜地区在宅避難者への物資、食材支援
- ・コンテナ村商店街へ情報収集及び購入支援
- ・うめまる新聞店へ情報収集
- ・清水地区仮設住宅への物資、食材支援
- ・第1小学校仮設住宅への物資、食材支援
- ・次回宿泊予定の「華夕美」の視察

### 3. 活動報告

今回情報収集で訪問した箇所は全て女川町内。情報収集+プチ支援ということで、少数精鋭の3名が車中1泊の強行スケジュール。  
事前に情報を得て、近々に必要とされてる物のみを持参。

情報収集といっても、相手は地震・津波を受けた被災者のため、質問攻めにならないよう、コミュニケーションを図りながらの活動を  
心掛けました。

以下、活動内容について報告します。

#### (1) 活動レポート

##### 2011年8月9日(火)

21:30に支援物資、食材を車1台に積み込み3名で首都高速 天現寺ICより出発。  
首都高速はそこそこの渋滞があったが、東北道に入ると心なしか車両の数が少なく感じました。  
平日ということもあってか、ボランティアのバスを見かけることもなく「菅生PA」に到着し仮眠。

##### 2011年8月10日(水)

いつも通り仙台南部道路の開通時間に合わせ5:40に「菅生PA」を出発し、女川町へと向かう。  
「石巻港IC」を降りて、今回は石巻市内の海沿いを通るも、まだまだ津波の爪あとのひどさに息を詰まらせる。  
車や瓦礫がそれぞれ仕分けられ、数箇所にまとめてある状態。  
しかし手付かずの場所も多く、被災したままの家屋やお店が多数ありました。

女川町入りしてまずは「テント村だいいょうぶ屋」さんへ訪問。予め依頼しておいた保温ポットにお湯をいただきました。  
ここは全国から女川町支援に集まる方々が、宿泊できるように設けられた場所で、常駐者がいない為、滞在しているボランティアが順番で

管理・運営しています。現在は「出島 イズシマ」の支援に注力されて、毎朝7:30に出島の漁師さんが出してくれる船に乗り島へ上陸。重機が何もない中、人力での瓦礫撤去、焼却をしています。

「出島」は行政も手付かずの離島のため、元島民の漁師さんが大歓迎でバックアップ。

最近、別の漁村の方が漁具を夜中に持っていくなどの心配事もあるため、夜間見回りも引き受けています。

次に女川町への支援活動を始めた当初よりお世話になっている「女川町災害ボランティアセンター」へ。

震災ハエを駆除する「ハエ取りポット」の原料（日本酒、砂糖、お酢）の依頼が事前にありお届け。

8/10現在の女川町内9箇所ある避難所の避難者数集計、32箇所ある仮設住宅の入居状況一覧表を元に次回の支援場所を検討。

次回、メイン支援先を避難所より新設仮設住宅にすることで合意。

9/3(土)第1小学校避難所及び仮設住宅への炊き出しは主食付とのリクエスト。

次回11月の支援活動では、仮設住宅居住者から寒さをしのぐ暖房器具類の要望がでてくる可能性大とのことでした。

津波被害を受けるも、ほぼ全壊に近い住居へかうじて住んでいる「石浜地区の在宅避難者」へ、ニッサン石鯛様よりご提供いただいた「濃縮液体洗剤ファーファ」を届ける。ここは12世帯が住んでいる集落で、震災時に避難所まで行くも一杯との理由で断られた方々が暮らしています。震災以来、何も行政から支援を受けていない地区で、当時は雪降る寒い中、草や缶詰を探して食べ、飢えをしのいでいた話を聞かせてくれました。

前回の訪問でいくらか顔見知りになったこともあり、林道で車座になり、お茶会を催しました。

震災以来、人とゆっくり話す機会がないそうで、とても喜んでくださりました。

津波でご主人を亡くされた方のお話は、心に突き刺さるものがありました。

女川町内唯一の商店街、「コンテナ村商店街」。NPO法人「難民を助ける会」と女川町商工会青年部のメンバーにて立ち上げたコンテナでできた店舗が並ぶ商店街。

実際のところ、仮設住宅や高台にて津波被害を間逃れたごく一部の方が車で買いにきてる状態です。

他はボランティアに来た方などが食事をしたり、お土産を買ったりしてます。

行政での復興支援を待ちきれずに見切り発車した商店街ですが、まだまだ課題も山積みようです。

「うめまる新聞店」のご主人阿部さんは、青年会議所のメンバーで、震災以降「うみねこタイムズ」なる手書きのミニコミ誌を発行。

女川町民のために発行することを決意され、月に1~2回ほどのペースで最新情報を届けています。

内容は避難所・仮設住宅の状況や、仮店舗の営業開始情報から潮見表までと多岐に渡っており、町外のボランティア団体からも貴重な情報源として重宝されています。お邪魔した際、翌日の新聞折込に入れられる予定の最新号をいただき感謝。

WEBでみる画像とは違い、実物は昔ながらのガリ版で刷られたような物でしたが、一生の宝物になりそうです。

阿部さんのお話では、仮設住宅へ移った後、生活費の問題が出てくるのは必然で、今から女川町の多くの高齢者が働けるような雇用の創出を考えておかないとならないとのことでした。しかし、町民の中には心の傷が癒えてない方も多く、その辺りも配慮しながら徐々に自助力をあげていきたいと。女川町復興への鍵を握る若手の代表といった感じの方でした。

女川町の主産業である漁業は、やっと一部再開。金華山沖で定置網にてイカ・銀鮭漁を実施中。

町内でお店を流された「女川町飲食業組合」の有志メンバーが、仮設住宅の一部を借りて女川町内の学校給食を作る予定。

「清水地区仮設住宅」は、7月頭の支援活動で初めて訪問しました。まだその頃は入居が始まったばかりで、居住者の顔は皆暗く、不安で一杯そうでした。その為、居住者同士の会話も少なく今後のコミュニティが課題となっていました。

今回、この清水地区の仮設住宅をとりまとめる村長さんを探しにきました。今後の支援活動をする際、連携をとる意味でも大事な窓口となってくださいます。私達がお邪魔した際に、平塚さんという村長さんとお話することができました。

ここは144戸の仮設住宅があり、女川町内では3番目の大きさです。

こちらでも支援物資のお米と洗濯用洗剤ファーファをお届けしました。

今後、この地区での支援活動を行う際は、村長さんを通して行っていきます。

「第1小学校仮設住宅」は、第1小学校避難所と併設されており57戸の仮設住宅があります。

この小学校は、私達が始めて女川町での炊き出しを行った場所で、大人から子供まで見かけた顔が多数いました。

震災より1.5ヶ月後のまだ物資がほとんど届かないなか、洗濯用洗剤ファーファをニッサン石鯛さんをお願いして大量にお送りいただいた学校です。この仮設住宅は、女川町で最初に完成し、小さな子供がいたり、体にハンディがある方など優先度の高い方が入居してます。こちらの仮設住宅では岡村長さんとお話しました。

とても素敵な心優しい方で、皆が慕っています。岡さんには震災直後に生まれた長女がいて、ご婦人と3人で仮設住宅暮らしです。

元々は女川町でサーフショップを経営されてた方で、現在はボランティアで町立病院の警備の手伝いをしています。

岡さんを中心に居住者の方々は、他の地区の仮設受託よりもコミュニティが形成されていました。

次回支援活動時に宿泊予定の「華夕美」さんは、先月まで避難所として提供。現在は臨時営業を再開。女川町総合体育館に先月まで設置されていた自衛隊風呂「弘法の湯」がなくなったため、現在は「華夕美」さんが町民指定のお風呂として提供。宿泊者は町民と一緒に入浴、また食事も通常営業ではないため食堂にて定食が配膳。宿泊部屋は被災していない部屋と宴会場をセパレートして使用。身体が果たして休まるのが、1度宿泊してみないことには不明。

#### 4. その他の現地情報

##### (1) 女川町立第4保育所

「テント村だいじょうぶ屋」さんと辰井夫人より話を聞いた旭丘地区の「女川町立第4保育所」に訪問。保育所の統廃合により、3園を統合し再開。現在は園児89名が通園。町の役場や災害対策本部より物資食材の支給を優先的にもらえてるため、施設としてのニーズは今のところない。この日も多くの園児が元気よくプールで水遊びしてました！

##### (2) 石浜地区リクエスト

扇風機 1台  
電気ポット 1台 (石川家にあり)  
お米、魚(干物)、野菜、アイス、レトルト食品、インスタント食品  
9月支援活動の際、車にて石巻市イオンまで買い物に連れて行って欲しい。

##### (3) 清水地区仮設住宅リクエスト

お米、野菜、調味料、レトルト食品、インスタント食品  
洗濯用洗剤  
比較的新しい仮設住宅の為、食材、生活用品や消耗品などは喜んでもらえそう。

##### (4) 第1小学校仮設住宅リクエスト

赤ちゃん用オムツ パンツタイプ (M、L、BIGサイズ)  
大人用オムツ (Lサイズ)  
押し入れの除湿剤

以上、簡単ではありますが活動レポートとさせていただきます。

今回の情報収集及びプッチ支援活動で感じたのは、改めてまだまだ被災者に対する継続支援が必要だということ。そして「普通の生活」をするレベルまでは、全く達していないことでした。被災地の情報がメディアで取り上げられる回数も減り、仮設住宅への移行が済めば復興がだいぶ進んだと思われる節がありますが、やっと「1日生き延びる生活」から「住むところはあるが食べるに困る生活」へと進んだだけです。これからがある意味1番大変なフェーズになります。支援の内容や方法も合わせて変えていく必要を感じています。今回の活動に急なお願ひにも関わらず物資のご提供いただきましたニッサン石巻様、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。それとともに引き続きご支援ご協力の程宜しくお願ひ申し上げます。

#### 5. 補足事項

##### (1) 参加者

工藤 史大 (東京)                      石川 篤史 (東京)  
松原 徹弥 (東京)

##### (2) 後方支援、手伝い (敬称略/順不同)

小澤 雅志                                  川端 陽子

##### (3) 支援物資提供、支援金 (順不同)

(4) 行政支援

災害派遣等従事車両証明書 (港区防災課より発行)

(5) 現地受け入れ先

宮城県女川町災害ボランティアセンター

皆様からのあたたかいご支援・ご協力のうで成り立っております。

本当にありがとうございました。

継続して被災地への支援活動をしていきますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

平成23年8月10日

東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大